

工場訪問記 「化粧品OEMの最前線」

化粧品OEM・ODM企業の工場を紹介する「工場訪問記」化粧品OEMの最前線。今回は、ジャパンビュティプロダクツ（東京都中央区銀座、高木正好社長）の福島工場（福島県田村市滝根町）を訪問した。

＊ ＊ ＊

福島県田村市に位置するジャパンビュティプロダクツ福島工場は、1998年に竣工した。警備自動車道小野ICから車で7分、JR磐越東線の神保町や小野新町駅から徒歩、東北・山形新幹線が停車する郡山駅からもアクセス可能な立地にある。2015年にISO9001

所製品倉庫、チューブ製品を中心とした充填包装室を配置、2階にも充填包装室が4室ある。バルク製造設備としては真空乳化釜50〜1300リットル、オープン釜500リットル2連追従充填、4包シール充填機などを揃える。工場単体で月産約80万個、年間約1000万個を生産し、協力会社への外注を含めると同社全体で年間1200万個前後となる。目の製品（重み）形成剤、アイフナー、アイフロウ（の受注も拡大しており、新たにペン型容器専用の充填機を改造導入

進めている。同工場の今後、競争力の源泉であり、いかに設備投資計画は、同社次期3か年計画の中で省力化後のテーマだ（東城工場長）。同工場は2015年の化粧品GMP認証取得以来、同規格に基づく管理を徹底し、秤量のバーコード管理や調合時の誤投入防止システムを運用すること、トフルの未然防止に努める。従業員が生産エリアへの入室時には服装チェック、手洗い・消毒を徹底し、手洗いタイマーやチェッカーを用いて衛生レベルを維持。工場内はグリーンルーム仕様で、充填室はH EPAフィルターと陽圧管理によって清浄度を保っている。さらに純水配管の自動殺菌システムを導入するなど、安定供給に向けた衛生設備投資も積極的に行っている。

「GMPの運用に際しては、単にルールを守るだけでなく、なぜそのルールが必要かを従業員全員で理解する教育を重ねてきた。また、従業員からの改善提案を重視しており、中期目標に掲げた提案件数1000件を突破。いまでは従業員一人ひとりが主体的に改善に取り組み文化が根付いている」。

最後に、同工場について特筆したいのは、正社員・パート社員を含めた従業員の離職率の低さである。人手不足が叫ばれる昨今、同工場ではこの5年間でパート社員の離職率はゼロだといふ。背景には、全従業員

ノンケミUVの効率生産推進 5年間離職率ゼロ 人材定着が良品生産支える



福島工場長
東城 浩雄氏

0.2を備え、幅広いロットに対応。充填設備はディスプレイで製品にも対応可能な体制を整えている。さらに

として位置付けているノンケミカルUV製品の生産設備については、これまで7人必要だった工程を3人でまわせるようにするなど、人員負担を軽減しながら効率化を進めたい。当社は3000個から応えられかつ多品種対応が強い。小規模案件から大口ロット品まで柔軟にえられる体制こそ競

「安全・安心・高品質を大前提に、地域にお客様から信頼される工場であり続けたい。今後も従業員が感謝の気持ちを持ち、謙虚なマインドを磨いていきたい」。

ジャパンビュティプロダクツ 福島工場



福島県田村市にある福島工場
6 化粧品GMPの認証
面積は1万1267㎡で、工場建物と別棟の資材倉庫を合わせた延べ床面積は445・73㎡に及ぶ。工場1階には調査室、生産部門の管理事務

充填機（超音波圧着・ホットエアー圧着）、溶融充填バルク溶解用恒温槽を新規導入し、生産能力の拡充を

今年に入ってからほぼ型の

（文責：川口）